
種生物学会ニュースレター No. 41

THE SOCIETY FOR THE STUDY OF SPECIES BIOLOGY NEWSLETTER 41
October 2010

種生物学会 <http://www.speciesbiology.org/>

Plant Species Biology <http://wileyonlinelibrary.com/journal/psbi>

種生物学研究 <http://www.bun-ichi.co.jp/ssso.html>

目次

第4回種生物学会片岡奨励賞選考報告.....	1
第4回 Plant Species Biology 論文賞選考中間報告.....	2
第42回種生物学シンポジウムのご案内.....	2
第42回種生物学シンポジウム事務局からのお知らせ.....	5
会費納入のお願い.....	9
会員異動.....	9
第42回種生物学シンポジウム参加申込用紙.....	11

第4回種生物学会片岡奨励賞選考報告

選考委員会は、推薦のあった候補者の研究業績および種生物学会での活動について慎重に調査審査し、最終選考会議を9月27日に京都大学でおこないました。その結果、選考委員の全員一致で、以下の2名に授与することを決定いたしました。(五十音順)。

石濱史子 (国立環境研究所)

森長真一 (東京大学)

(片岡奨励賞選考委員会委員長 川窪伸光)

受賞理由

石濱 史子 氏

石濱氏の研究は、植物野外集団の実測データを用いて、個体群動態や繁殖生態学的な数理モデルを構築し、また保全生物学的な予測評価も対象としている。その研究姿勢は、一貫して植物野外集団の空間構造とそのスケールが、植物集団の絶滅リスクにどのように関係するのかを明らかにするものである。河川に生育するカワラノギクのリスク評価においては、メタ個体群、地域個体群、局所個体群の3階層性の個体群動態について格子数理モデルを構築し、その存続特性を明らかにした。そして、モデルを駆使して、従来の研究手法では予測困難だった個体群の存続可能性とそれに影響を与える要因の評価に成功している。また、数理解析結果に基づくサクラソウ保全事業への具体的・実践的指針呈示など、データを破壊的に収集することが困難である希少植物個体群の保全に、野生集団の空間構造の数理解析的研究成果を積極的に取り入れた姿勢は高く評価できる。種生物学会では、和文誌編集委員をはじめ、監査や地区幹事も務め、和文誌「外来生物の生態学」を責任編集者の一人としてまとめ、活発な学会活動を展開し、自らの研究分野のみにとらわれることなく、広く種生物学分野全体の発展にも尽くしている。

森長 真一 氏

森長氏は、一貫して野生植物における適応進化を遺伝子レベルから探る研究を行ってきた。氏はゲノミクス・分子遺伝学の手法を生態学にいち早く取り入れ、この分野をリードしてきた。コカイトネツケバナにおける研究では、マイクロアレイを用いて閉鎖花における網羅的な発現解析を行い、閉鎖花形成の遺伝的背景・発生メカニズムを世界で初めて本格的に考察した。さらに閉鎖花において、発現量の増す遺伝子が多くあることを発見し、「閉鎖花は自殖用のコストの小さい花」という従来の認識に疑問を投げかけた。また、植物の高地適応の研究にも取り組み、ハクサンハタザオの高山型「イブキハタザオ」をモデル系に、高地への適応を担ったゲノム変異の研究を進めた。その結果、高地と低地で遺伝的分化はごくわずかであること、高地への適応進化を担った変異の多くは低地の祖先集団にも分離していることなどを発見した。氏は2005年、2008年にエコゲノミクスに関連するテーマで種生物学学会シンポジウムを企画し、日本におけるエコゲノミクス分野の普及に大きく貢献した。種生物学和文誌「オミクス時代の生態学(仮)」では、責任編集者の一人として活躍している。

片岡奨励賞選考委員： 井鷲裕司・川窪伸光(委員長)・西脇亜也・吉岡俊人

第4回 Plant Species Biology 論文賞選考中間報告

第4回 種生物学学会論文賞(Plant Species Biology Best Paper Award 2010)は、現在選考委員会で選考中です。昨年まではPlant Species Biologyが、4月、8月、12月に発行されていたため、論文賞は、前年の12月号、当年の4月、8月号の掲載論文から選考されていました。しかし、本年より、発行月が1月、5月、9月となりましたので、第4回に関しましては、PSB 2009 Vol.24(3)、PSB 2010 Vol.25(1-3)に掲載された論文(regular paper)から選考を行います。

受賞論文が決定次第、学会のウェブサイト(<http://www.speciesbiology.org>)で、選考結果をお知らせいたします。受賞論文の筆頭著者には楯と賞状を、共著者全員に賞状をお贈りさせていただきます。また、表彰式は、2010年12月11日(土)の種生物学学会総会にて行う予定です。

(Plant Species Biology 論文賞選考委員長 大原 雅)

第42回種生物学シンポジウムのご案内

今年の種生物学シンポジウムは、2010年12月10日(金)～12月12日(日)に、京都大学にて開催されます。企画プレシンポジウム・企画シンポジウムのプログラムは下記の通りです。広い意味での生物地理学・系統分類学・系統地理学に関する話題が中心に取り上げられる予定です。また、企画プレシンポジウム・企画シンポジウム以外に、ポスター発表を受け付けております。ポスター賞もあります。積極的にポスター発表をしていただければ幸いです。

今回の種生物学シンポジウムに関しては、できるだけ多くの種生物学学会会員の方々が参加しやすいようにと考え、前回までとは異なり、合宿形式では行わないことにしました。また、今回は、河野昭一京都大学名誉教授(京都大学総合博物館初代館長)の案内による京都大学総合博物館特別見学会を開催します。今回の種生物学シンポジウムの参加者は、この見学会に無料で参加していただけます。

また、前回と同様に今回も、論文投稿講習会を開催します。種生物学学会2010年度総会、片岡奨励賞・Plant Species Biology論文賞・ポスター賞の授賞式も行います。託児室も設けます。皆様、第42回種生物学シンポジウムにふるってご参加ください。

第42回種生物学シンポジウム

実行委員長 田村 実(京都大学大学院理学研究科)

事務局長 篠原 渉(京都大学大学院理学研究科)

会 期：2010年12月10日（金）～12月12日（日）

会 場：

京都大学吉田キャンパス北部構内

京都大学理学研究科セミナーハウス

シンポジウム1，シンポジウム2，プレシンポジウム，論文投稿講習会，種生物学会2010
年度総会

京都大学生協同組合喫茶「ほくと」

ポスター発表，ミキサー，懇親会，片岡奨励賞・Plant Species Biology 論文賞・ポスター
賞の授賞式

京都大学吉田キャンパス本部構内

京都大学総合博物館 京都大学総合博物館特別見学会

プログラム（仮）

12月10日（金）

12:15-14:00 京都大学総合博物館特別見学会

- ・ 案内人：河野昭一（京都大学名誉教授，京都大学総合博物館初代館長）

※ 本見学会の参加者のみ 12:00-12:15に京都大学総合博物館1階チケット売り場前にて受付を行います

14:00 受付開始（於 京都大学理学研究科セミナーハウス）

14:30-16:00 論文投稿講習会

16:30-18:30 プレシンポジウム

18:50-20:50 ミキサー

論文投稿講習会「英文誌投稿時の心構えー投稿規程を通して」

- ・ 大原 雅（北海道大・Plant Species Biology 編集長）
- ・ 柏村 愛（Wiley-Blackwell・Plant Species Biology 出版社）

プレシンポジウム テーマ「爬虫両生類の生物地理学」

- ・ 16:30-17:10

「東南アジア地域の爬虫類の系統地理学：トビトカゲ属とミズトカゲ属の祖先地域推定」

疋田 努（京都大・院・理・動）

- ・ 17:10-17:50

「北フィリピン-南台湾島嶼列の爬虫両生類相：歴史生物地理学的視点からの考察」

太田英利（兵庫県立大・自然研／人博）

- ・ 18:00-18:30 総合討論

12月11日（土）

09:00-12:00, 14:00-17:30 シンポジウム1

12:00-13:00 昼休み

13:00-14:00 ポスター発表

17:40-18:40 種生物学会2010年度総会

19:00-21:00 懇親会 / 片岡奨励賞・Plant Species Biology 論文賞・ポスター賞の授賞式

シンポジウム1 テーマ「これからの植物系統分類学が目指すもの」

18世紀の分類学は生物間の類縁に基づいた自然分類を目指し、進化論確立以降の分類学は生物進化の道すじを反映した系統分類を目指してきた。そして今、生物進化の道すじは、DNAを用いた分子系統解析により、ある程度までは簡単にわかる時代に突入した。分子系統解析が全盛期を迎えた今、精度の高い系統樹を獲得した植物系統分類学が、次に目指すものは何か。植物系統分類学の発展の方向性と可能性について、いろいろな切り口から植物進化を調べてきた研究者が、自身の研究成果に基づいて、見解を語る。

- 09:00-09:10 シンポジウム1の趣旨説明
田村 実 (京都大・院・理・植)
- 09:10-09:50 植物形態学の視点1から
「アブラナ目の系統と形態進化」
戸部 博 (京都大・院・理・植)
- 9:50-10:30 植物形態学の視点2から
「花粉管ガイダンスと重複受精から考察する種の形成と維持」
東山 哲也 (名古屋大・院・理・生命理学)
- 10:40-11:20 古植物学の視点から
「進化古植物学—化石の中に生きている植物の足跡を探し、生きている植物の中に化石の面影を探す」
山田敏弘 (金沢大・理工・自然システム)
- 11:20-12:00 植物発生学の視点から
「葉の形の制御メカニズム：モデル生物から多様性への展開」
塚谷裕一 (東京大・院・理・生)
-
- 14:00-14:40 植物進化・生態学の視点から
「次世代シーケンサーが拓く「非モデル」植物研究—異質倍数体の複数回起源を例に—」
清水健太郎 (チューリヒ大・植物生物学研究所)
- 14:40-15:20 共進化の視点から
「昆虫たちの行動解析から植物形態の機能を探る・虫を操る装置のかたち」
川窪伸光 (岐阜大・応生・生物環境)
- 15:30-16:10 植物分類学の視点1から
「繁殖干渉の知見が植物系統分類・植物地理にもたらすもの」
西田佐知子 (名古屋大・博物館)
- 16:10-16:50 植物分類学の視点2から
「テンナンショウ属の分類から見た分類群の認識」
邑田 仁 (東京大・院・理・植物園) :
- 17:00-17:30 総合討論

12月12日(日)

09:00-11:10, 13:10-16:00 シンポジウム2

11:10-12:10 ポスター発表

12:10-13:10 昼休み

シンポジウム 2 テーマ「系統地理学は何をする!?!~生物地理学的研究から進化研究を目指して~」

系統地理学は、生物の地域集団が持つ遺伝的組成と集団間の類縁関係を明らかにすることから、種内レベルにおける分散や地理的分断を明らかにする生物地理学に大きな貢献をもたらしてきた。そして、系統地理学的研究の意義は、こうした博物学的な知見の記載だけにはとどまらない。とりわけ、ゲノム解読技術が飛躍的に発展している今日、系統地理学が新たな展開を遂げる局面であろう。本シンポジウムでは、昨今の系統地理学が蓄積してきた博物学的な知見に加え、今後の展開のヒントとなる先駆的な研究を紹介することで、系統地理学が幅広い応用をもったアプローチであることを示したいと考えている。

- 09:00-09:10 シンポジウム 2 の趣旨説明
池田啓 (東京大・院・理・生)
- 09:10-09:50 「全球レベルの系統地理：海に浮かんで地球一周」
高山浩司 (ウィーン大・植物・植物系統進化)・梶田忠 (千葉大・院・理・生)
- 09:50-10:30 「系統地理から分かる地史：ニホンザリガニは北日本の生き証人」
小泉逸郎 (北海道大・創成研究機構)・西川潮 (新潟大・超域)・川井唯史 (北海道稚内水試・調査研究部)・東典子 (東京農大・生物資源開発)・増田隆一 (北海道大・院・理・生)
- 10:30-11:10 「系統地理学と種の起源：琉球列島におけるモミジハグマ属 (キク科) の起源と適応進化プロセス」
三井裕樹・瀬戸口浩彰 (京都大・院・人間環境・相関環境)
-
- 13:10-13:50 「日本の哺乳類における毛色変異と系統地理」
布目三夫 (名古屋大・院・生命農学・応用生命)・友澤森彦 (慶応義塾大・自然科学セ)・佐藤淳 (福山大・生命工)・鈴木仁 (北海道大・院・地球環境・生態遺伝) :
- 13:50-14:30 「東アジアスケールでのハリギリの系統地理—系統解析とニッチモデリングからのアプローチ—」
阪口翔太 (京都大・院・農・森林)・竹内やよい (総研大・先導科学・生命共生体進化)・山崎理正 (京都大・院・農・森林)・櫻井聖悟 (京都府大・院・生命環境・森林)・Ying-Xiong Qiu・Yihui Liu・Xin-shuai Qi (浙江大・生命科学)・Sea-Hyun Kim・Jingyu Han (Korea Forest Research Institute・Forest Resources Development)・井鷲裕司 (京都大・院・農・森林)
- 14:30-15:10 「ヒトゲノムにおける地域特異的な自然選択の探索と形質関連遺伝子の同定」
木村亮介 (琉球大・超越研究機構) :
- 15:10-16:00 総合討論 (コメンテーター：東 広之 (京都大・院・人間環境・相関環境))

※ 講演者や演題は、変更される場合があります。また、会場と受付場所が京都大学吉田キャンパス内で変更される場合もありますが、その場合は、2010年11月頃に種生物学会ホームページにて種生物学シンポジウム事務局からご案内いたします。

第42回種生物学シンポジウム事務局からのお知らせ

第42回種生物学シンポジウム事務局長 篠原 渉

参加申し込み

原則として種生物学会のホームページの第42回種

生物学シンポジウム申し込みのページから参加申

し込みをおこなってください。

- <http://www.speciesbiology.org/form/>

FAX または郵送で申し込まれる方は、参加申し込み用紙に必要事項をご記入のうえ、下記の FAX 番号または住所までお送りください。

- FAX : 03-3504-3909
- 〒105-0001
東京都港区虎ノ門 1 丁目 15 番 16 号
海洋船舶ビル 8 階
CANPAN センター ACNet 事務局
種生物学会担当

宿泊について

今年の種生物学シンポジウムは合宿形式ではないため、宿を用意しておりません。宿泊される方は各自で宿をご予約ください。京都は観光客等も多いので、宿については早めの予約をお願いします。

ポスター発表の募集

例年通り、ポスターセッションを行います。ポスター発表を希望される参加者の方は、参加申し込みと同時にホームページからポスター発表を申し込んでください。

- ポスター発表の主発表者（演者）は、種生物学会会員に限りません。演者とはポスターの前で研究内容を説明する方のことです
- 種生物学会に入会を希望する方は、種生物学会ホームページの「入会案内」より入会ください：

<http://www.speciesbiology.org/entree/>

- ポスターボードのサイズは、210 cm（縦）×90 cm（横）です
- ポスター賞に応募するかどうかのチェックも忘れずをお願いします

ポスター発表の申し込み締め切り：
11月12日（金）

参加費

2010年11月12日の時点で、会員・非会員が区別されます。その時点で会員の方は会員料金を、非会員の方は非会員料金をお支払いください。

- 一般（会員）
11/12 までに納入の場合：5,000 円

11/13 以降に納入の場合：6,000 円

- 一般（非会員）
11/12 までに納入の場合：6,000 円
11/13 以降に納入の場合：7,000 円
- 学生（会員）
11/12 までに納入の場合：1,500 円
11/13 以降に納入の場合：2,000 円
- 学生（非会員）
11/12 までに納入の場合：2,000 円
11/13 以降に納入の場合：2,500 円

なお、シンポジウム当日に会場でも種生物学会への入会を受付けます。

ミキサー・懇親会費

ミキサー（12月10日）

- 一般
11/12 までに納入の場合：4,000 円
11/13 以降に納入の場合：5,000 円
- 学生
11/12 までに納入の場合：2,000 円
11/13 以降に納入の場合：2,500 円

懇親会（12月11日）

- 一般
11/12 までに納入の場合：5,000 円
11/13 以降に納入の場合：6,000 円
- 学生
11/12 までに納入の場合：2,500 円
11/13 以降に納入の場合：3,000 円

ミキサー・懇親会費は夕食費を含んでいます。ミキサーおよび懇親会への参加申し込みは、本シンポジウム参加申し込みフォームより事前に行ってください：

<http://www.speciesbiology.org/form/>

参加費、ミキサー・懇親会費の振り込み

本シンポジウム専用の振り込み用紙は準備しておりません。ゆうちょ銀行（郵便局）にある振り込み用紙に以下の口座番号をご記入の上、参加費、ミキサー・懇親会費の合計金額をご送金くださいますようお願い申し上げます。原則として参加費等の領収書は発行いたしません。郵便振込請求書兼受領証を各自保管してください。一旦払い込まれた参加費、懇親会費は返却できませんので、御

承知おきください。

ゆうちょ銀行（ぱるる振り込み）
口座番号： 00910-4-272203
加入者名： SSB42

託児所

託児所を開設します。申し込み時に同時に申し込んでください。申し込みをされた方には事務局から人数と年齢を確認するメールを差し上げます。

京都大学総合博物館特別見学会

京都大学総合博物館の特別見学会を開催します。本見学会参加希望者は本シンポジウム参加申し込みフォームの「京都大学総合博物館特別見学会」の項目から申し込んでください。本見学会における京都大学総合博物館への入場は無料ですので、くれぐれもチケットを購入することのないように注意してください。本見学会は本シンポジウムの受付に先だって開催されます。参加される方は2010年12月10日（金）の12時15分までに京都大学総合博物館入口チケット売り場前（建物内）に直接お越しください。

会場のご案内

〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町 京都大学理学研究科セミナーハウス

<http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/modules/tinycontent9/index.php?id=1>

- JR線 京都駅（烏丸口）下車，市バス17系統（銀閣寺・錦林車庫行き）で「京大農学部前」下車，バス停から徒歩5分。所要時間は，約40分。または京都駅から，市バス206号系統（東山通 北大路バスターミナル行き）で「百万遍」下車，今出川通りを東に徒歩10分。所要時間は，約45分。
- 阪急線 阪急河原町駅下車，市バス17系統（銀閣寺・錦林車庫行き）で「京大農学部前」下車，バス停から徒歩5分。所要時間は，約30分。または市バス201号系統（祇園・百万遍行き）で「百万遍」下車，今出川通りを東に徒歩10分。所要時間は約35分。
- 地下鉄烏丸線 烏丸今出川駅下車，市バス203系統（銀閣寺道・錦林車庫行き）で「京大農学部前」下車，バス停から徒歩5分。所要時間は，約20分。
- 京阪線 出町柳駅下車 今出川通りを東へ徒歩，約20分。

（次頁につづく）

- 京都大学（吉田キャンパス）周辺のバス停の位置（下図中の白線内にバスマークがある箇所）
 理学研究科セミナーハウス，ポスター・ミキサー・懇親会会場は北部構内（下図中の矢印：上），
 京都大学総合博物館は本部構内（下図中の矢印：下）



- 京都大学 北部構内地図（下図）
 理学研究科セミナーハウス（矢印：上），ポスター・ミキサー・懇親会会場（北部生協2階「喫茶ほくと」，矢印：中），北部構内入口（矢印：下）



- 京都大学総合博物館（下図中の矢印）



第 42 回種生物学シンポジウム事務局への連絡先

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科植物学教室

第 42 回種生物学シンポジウム事務局 篠原 渉

e-mail: psb10ml@biol.sci.kyoto-u.ac.jp

会費納入のお願い

種生物学会の会費は前納制です。2011 年の会費を下記宛にお振込み下さいますようお願い申し上げます。会費は、一般会員 12000 円、学生会員 6000 円です。特に 2010 年度までの会費に未納金がある方は、お急ぎくださいますようお願い申し上げます。お振込み頂く金額は、同封別紙の「会費納入のお願い」に記してありますのでご確認ください。

郵便振替番号 00240-6-45544 加入者名 種生物学会

なお、第 42 回種生物学シンポジウム当日に、会場でも種生物学会への入会および会費の納入を受け付けます。

(会計幹事 布施静香)

会員移動 (2010 年 4 月～9 月)

入会

[Redacted names and addresses for new members]

住所変更

[Redacted names and addresses for address changes]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

退会

[Redacted text block]

種生物学会ニュースレター41
発行：種生物学会
<http://www.speciesbiology.org>
編集：小林 剛（庶務）
〒761-0795
香川県 木田郡 三木町 池戸 2393
香川大学 農学部
発行日：2010年10月1日
印刷所：ウニスガ印刷株式会社

第42回 種生物学シンポジウム 参加申込用紙

※ 郵送または FAX で申し込む方のみご使用ください。原則として第42回種生物学シンポジウム申し込みのページ (<http://www.speciesbiology.org/form/>) から申し込みを行ってください。

お名前 (必須) _____

ふりがな (必須) _____

所属 (必須) _____

所属の短縮表記 (必須) _____

連絡先住所 (必須) _____

メールアドレス (必須) _____

電話番号 (必須) _____

FAX番号 _____

上記連絡先 所属 自宅

シンポジウム参加費 (必須)

会員

一般 (11/12 までに納入の場合：5,000 円, 11/13 以降に納入の場合：6,000 円)

学生 (11/12 までに納入の場合：1,500 円, 11/13 以降に納入の場合：2,000 円)

非会員

一般 (11/12 までに納入の場合：6,000 円, 11/13 以降に納入の場合：7,000 円)

学生 (11/12 までに納入の場合：2,000 円, 11/13 以降に納入の場合：2,500 円)

ミキサー (12月10日)

一般 (11/12 までに納入の場合：4,000 円, 11/13 以降に納入の場合：5,000 円)

学生 (11/12 までに納入の場合：2,000 円, 11/13 以降に納入の場合：2,500 円)

参加しない

懇親会 (12月11日)

一般 (11/12 までに納入の場合：5,000 円, 11/13 以降に納入の場合：6,000 円)

学生 (11/12 までに納入の場合：2,500 円, 11/13 以降に納入の場合：3,000 円)

参加しない

論文投稿講習会 (必須) 参加する 参加しない

京都大学総合博物館特別見学会 (必須) 参加する 参加しない

託児所の利用 12月10日 12月11日 12月12日

ポスター発表 (必須) 有 無 (有の場合： 演者 演者でない)

ポスター賞応募 (演者のみ必須, 演者以外の方は記入しないでください)
 応募する 応募しない

発表タイトル (演者のみ必須, 演者以外の方は記入しないでください)

発表者全員の氏名と所属の短縮表記 _____

振込郵便局 _____

振込日 _____

振込合計金額 _____